

令和6年度第2回野田市総合教育会議次第

日時 令和6年10月31日（木）

午前9時から午前10時まで

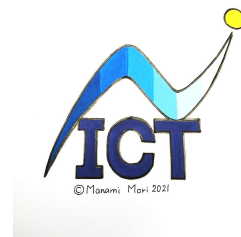
場所 市役所低層棟2階中会議室

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) G I G Aスクール構想第2期に向けて
 - (2) 福田地区学校配置適正化について
- 3 その他
- 4 閉会

GIGAスクール構想 第2期に向けて

第1期: 令和2～6年度

第2期: 令和7年度～



GIGAスクール構想第1期の成果

成果1

NICT教育の推進

令和6年度 第1回 NICTプロジェクト推進会議

令和6年5月22日



校務に関わること

- 指導案の作成 みずき
- 林間学校や研学旅行などの参加 フォーム みずき
- 行事等への参加申し込み 山崎
- 教員間の連携事例をClassroomで行う 南部中
- 連絡帳の電子化 (フォーム) 南部小
- 教室内に電話がないためクラスルームを活用して電話連絡の共有 山崎
- 回数アンケート (研発) のフォームでの実施・集計 ニツ塚

各校の実践について

- 自校での実践
- 質問・疑問
- その他
- 宿題 (オンライン) ニツ塚
- テレレの人数が定員ないが、人数が定員に満たぬ状況で授業を行うことにより学習効果は向上している 福一
- 各教室に1台テレビがなく、画面を見せながらの指導ができないときもある 福田
- 個人掲示物の作成 (英語の自己紹介、国語の案内文作成) 福田
- 小テスト (国語、算数、体育) 福一
- フォームを簡易HPとして活用 南部小
- 図工 完成した作品の写真的集約 ニツ塚
- 特別教室の予約表 南部小
- keepを使って学年会資料の作成 南部小
- 理科の実験 まとめ 山崎
- 校外学習の事後報告スライド作成 福田
- 総学旅行のガイドブック制作 (スライド) 山崎
- 生徒総会の資料作成 南部中
- 1年生へのChromebookの使い方の1分作成 山崎
- PDFでの小テスト 南部小
- 林間学校交流会 福一
- 校外学習後のまとめスライド作り 福一
- 生徒総会の資料作成 南部中

クラスルームでのSNSみたいな活用

GIGAスクール構想第1期の成果

成果2

NICT教育推進指定校の取り組み

「確かな学力をつけるための、深い学びにつながる授業づくり」
～ICTを効果的に活用した主体的・対話的な授業を目指して～



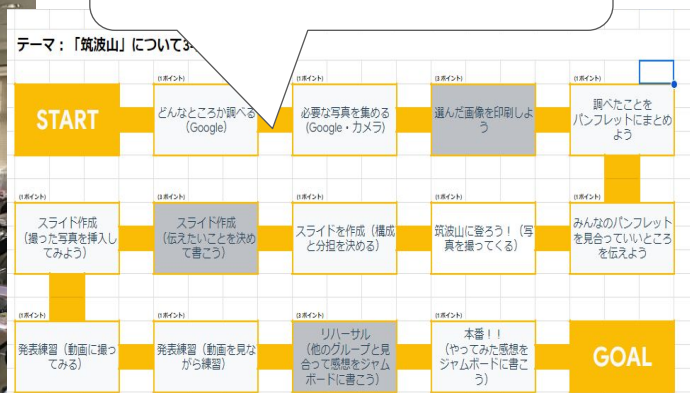
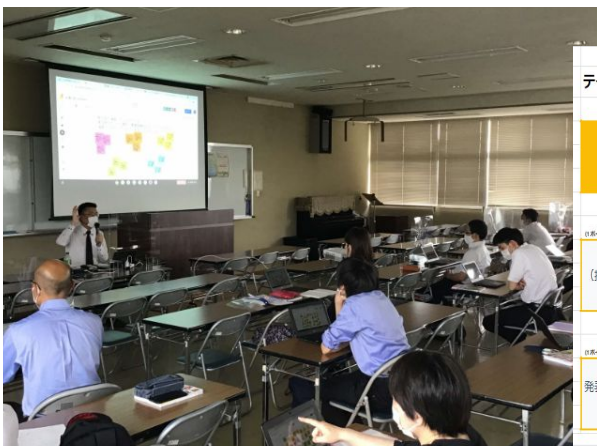
GIGAスクール構想第1期の成果

成果3

Googleパートナー自治体への参画

コア研修

研修生同士オンライン上で共有して作成しました。



GIGAスクール構想第1期の成果

成果3

Googleパートナー自治体への参画

アゲイン研修

資格取得支援研修

資格取得に向けての
模擬テスト



初級者向けの研修



Google 教育者認定資格レベル1 模擬テスト

本模擬テストは、株式会社ストリートスマートが実施する「認定教育者資格レベル1 取得」の専用コンテンツです。何度でもチャレンジしていただけますので、満点を目指してセミナーの復習や本番テストの準備にご活用ください。

nodasikyoul@noda.ed.jp アカウントを切り替える

* 必須の質問です

メールアドレス*

5

GIGAスクール構想第1期の成果

成果3

Googleパートナー自治体への参画

Google管理職研修

心理的安全性を高めるために管理職の方々ができること

6/14 Google for Education 管理職研修

☰

1 積極的な姿勢を示す

2 理解していることを示す

3 対人関係において相手を受け入れる姿勢を

4 意思決定において相手を受け入れる姿勢を

5 強情にならない範囲で自信や信念を持つ

自分の解答 クラスメートの解答

品、すべての生徒

野田市教育委員会指導課

久貴 氏名

原美 氏名

憲明 氏名

康人 氏名

弘典 氏名

本日の気づきを1つ教えてください。

止本 氏名 14日
自分の当たり前を疑う！考えが広がるかもしれない。職員にとって有効かもしれない

取人 氏名 14日
百分の中の当たり前を疑う

取明 氏名 14日
実際に、自分がgoogleを使うことができた。

6

GIGAスクール構想第1期の成果

成果4

ジュニアICTリーダーの活動



GIGAスクール構想第1期の成果

成果5

活用事例の共有

☆現在までの事例の総数は 1013件です
事例は学年ごとにシートを分けていますので、御覧ください

小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生
55	70	106	85	198	143
中学1年生	中学2年生	中学3年生	特別支援	全学年共通	教職員向け
48	68	37	35	132	36

活用事例のシェアリン...
1個のグループ・2人

メンバーを管理

種類 ユーザー 最終更新

- ☆入力はこちらから
- 1_小学校
- 2_中学校
- 3_通級指導
- 4_養護
- 5_情報教育
- 6_生徒指導
- 7_学校事務 (DX関...
- 8_栄養士
- 9_その他

GIGAスクール構想第1期の成果

成果6

令和6年度全国学力・学習状況調査(児童生徒)

「前学年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」(週3回以上)

	全国		野田市
小学校	59.5%	➡	65.4%
中学校	64.4%	➡	77.3%

5.9ポイント高い!

12.9ポイント高い!

9

GIGAスクール構想第1期の成果

成果7

令和6年度全国学力・学習状況調査(学校)

「前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」

(週3回以上)

	全国		野田市
小学校	93.2%	➡	95.0%
中学校	90.8%	➡	100.0%

1.8ポイント高い!

9.2ポイント高い!

10

課題1(学校間格差)

令和6年度全国学力・学習状況調査(児童生徒)
「前学年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」(週3回以上)

A小学校	58.7%
B小学校	70.5%

11.8ポイントの差

11

課題2(端末の持ち帰り)

令和6年度全国学力・学習状況調査(学校)

「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」
(時々・毎日持ち帰る)

	全国		野田市
小学校	86.3%	→	90.0%
中学校	84.4%	→	72.7%

3.7ポイント高い!

11.7ポイント低い!

12

GIGAスクール構想第2期に向けて

Try1

NICTアドバイザーの新設、ブロックでの共有(チャット)

指導課

NICTプロジェクトスーパーバイザー

NICTアドバイザー

DX推進

教科指導

NICT指定推進校

校長 教頭 教頭
 (南部小) (清水台小)
 (清水台小) (二中)
 (関宿中央小)

中央ブロック

リーダー2名

(宮崎小)

(第一中)

西部ブロック

リーダー2名

(岩木小)

(岩名中)

南部ブロック

リーダー2名

(みずき小)

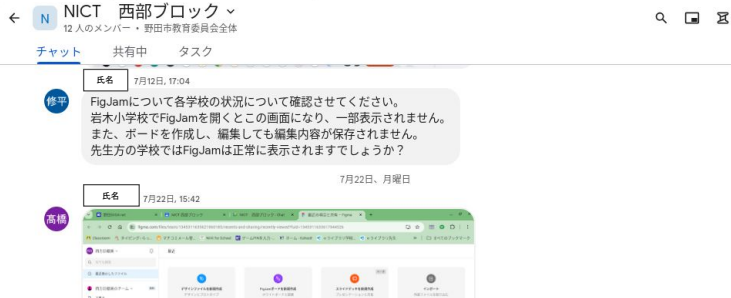
(南部中)

北部ブロック

リーダー2名

(木間ヶ瀬小)

(木間ヶ瀬中)



13

GIGA第2期に向けて

Try2

各学校の段階に応じた活用の推進

- 完全にデジタル化している
- 一部している (半分以上)
- 一部している (半分未満)
- 全くしていない

全国平均が出てきて、自校がどの段階にあるのかを把握することができます。

野田市ICTチェックリスト

自校の学校DX化の状況について率直に回答してください。回答後、「スコアを表示」を選択し、全国の平均値やDX化による効果、各校の活用事例やアプリのリンクを参考にしてください。また、自校の活用事例やアプリ等で共有いただけるものがありましたら、「活用事例のシェアリング」フォームで投稿いただけますようお願いいたします。こちらのフォームは随時更新しますので、何度でも回答いただき参考にさせていただけたらと思います。

共有なし

* 必須の質問です

リンクを選択すると、他校で使っているフォーマットやアプリを開くことができます。

フィードバック

全国平均

完全にデジタル化している・・・36.5%
 一部している (半分以上)・・・27.7%
 一部している (半分未満)・・・6.7%
 全くしていない・・・34.8%

児童生徒からアクセスできない環境でGoogle フォームやGoogle スプレッドシート等を活用することにより、朝の忙しい時間の電話や連絡ノートの提出が不要となり保護者の満足度が向上するとともに、集計や連絡にかかる学校の負担も大きく減ることが期待できる。

参考：下記リンク「活用事例のシェアリング_7_学校事務 (DX関係)」

14

Try3

GIGAスクール構想第2期に向けて

「ICTを使うかどうかの選択ができる力」の育成



教科書とノートを選択して学習

ICTを選択して学習

Try3

GIGAスクール構想第2期に向けて

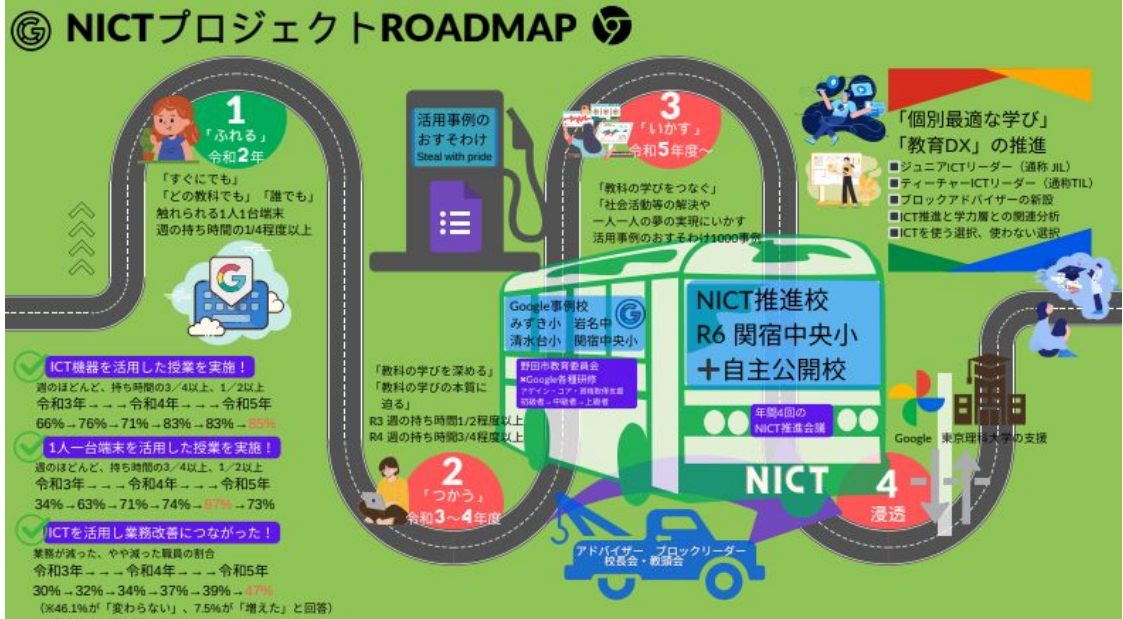
「ICTを使うかどうかの選択ができる力」の育成



紙で作成

ICTで作成

GIGAスクール構想第2期に向けて



GIGAスクール構想 GIGA端末の整備について ～1人1台端末の着実な更新～

令和5年度補正予算額（案） 2,661億円

現状・課題

- 全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、令和2～3年度に「1人1台端末」と高速通信ネットワークを集中的に整備し、GIGAスクール構想を推進。学校現場では活用が進み、効果が実感されつつある。
- 一方、1人1台端末の利活用が進むにつれて、故障端末の増加や、バッテリーの利用年数が迫るなどしており、GIGAスクール構想第2期を念頭に、今後、5年程度をかけて端末を計画的に更新するとともに、端末の故障時等においても子供たちの学びを止めない観点から、予備機の整備を進める。

事業内容・スキーム

公立学校の端末整備 予算額（案）2,643億円

- 都道府県に基金（5年間）を造成し、当面、令和7年度までの更新分（約7割）に必要な経費を計上。
- 都道府県を中心とした共同調達等など、計画的・効率的な端末整備を推進。

<1人1台端末・補助単価等>

- 補助基準額：5.5万円/台
 - 予備機：15%以内
 - 補助率：3分の2
- ※児童生徒全員分の端末（予備機含む）が補助対象。

<入出力支援装置>

視覚や聴覚、身体等に障害のある児童生徒の障害に対応した入出力支援装置（予備機含む）の整備を支援。



国私立、日本人学校等の端末整備 予算額（案）18億円

- 前回整備時と同様に補助事業により支援することとし、早期更新分に必要な経費を計上。
- 公立学校と同様に、補助単価の充実や予備機の整備を進める。

<1人1台端末・補助単価等>

- 補助基準額：5.5万円/台
- 予備機：15%以内
- 補助率：国立 10分の10
私立 3分の2
日本人学校等 3分の2

※入出力支援装置についても補助対象。
※今後も各学校の計画に沿った支援を実施予定。

第1期で整備した1人1台端末の扱いについて

・オンライン学習用等に

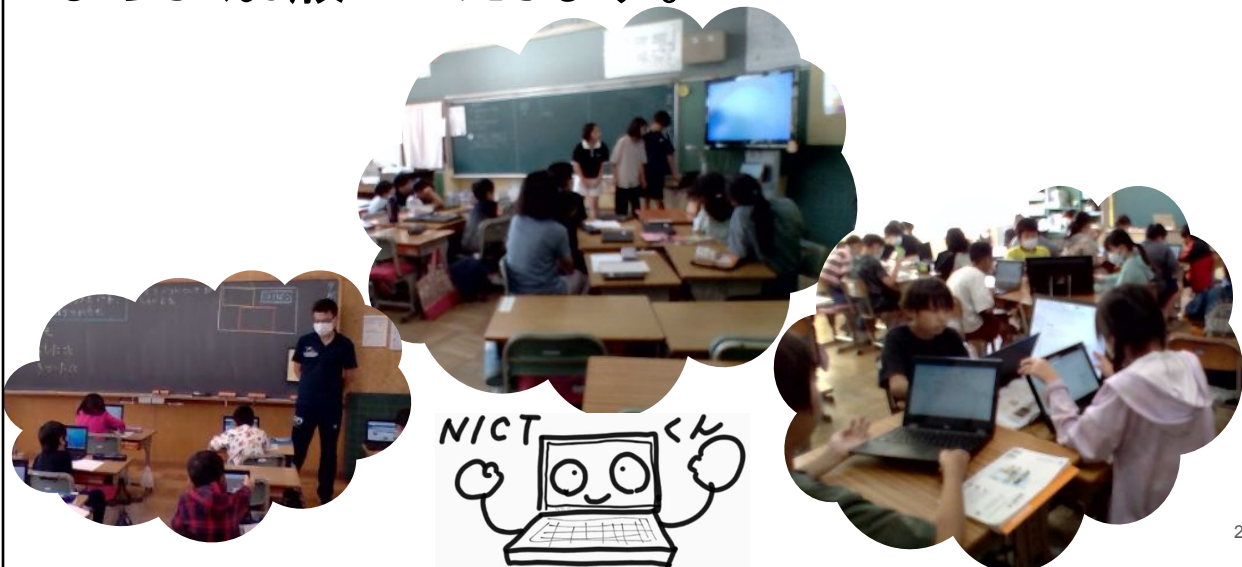
教員の操作用端末



オンライン用端末
(家庭で授業を受ける児童生徒)

- ・市の業務に(施設予約、図書館利用等)
- ・海外への寄附等

ご清聴ありがとうございました。
よろしくお願いいたします。



福田地区学校配置適正化について

1 小中一貫教育と義務教育学校について

福田地区において、9年間の教育課程による小中一貫教育を実施する義務教育学校を導入いたします。

令和10年度に福田地区で義務教育学校を開校することについて、9月14日に開催した福田地区学校適正配置検討委員会で報告し、御了承をいただきました。

なお、福田第二小学校については、令和7年度末までに市内全体における小規模特認校のあり方を決定いたします。

● 小中一貫教育を行う2つの制度（小中一貫校と義務教育学校）の主な違い

小中一貫校では、小学校と中学校は職員組織も含めて別々となる、いわゆる併設の形となります。一方、義務教育学校では、小学校・中学校の区切りがなく、9年制の課程となり、教職員組織も一つとなります。

● 小中一貫校のメリットとデメリットについて

・メリット

施設は併設でも小学校と中学校の基本的な枠組みは残るため、児童生徒や教職員の新たな制度に対するとまどいや混乱が、義務教育学校と比較して少ない。

・デメリット

小中学校の別々の組織が相互調整して教育課程の編成や学校管理運営を行うことになるため、両校を一体的にマネジメントする役割を担う人や組織が必要となり、小中両校長及び教職員組織同士の調整業務が発生する。

● 義務教育学校のメリットとデメリットについて

・メリット

一人の校長の下で一つの教職員組織となることから、校長のリーダーシップが発揮しやすくなり、学校教育目標や教育課程の方針が統一され、9年間を通じた学校としての方針や考え方が明確になるため、より一体的な学校運営を行うことが可能となる。子どもたちの9年間の成長に合わせて連続性を持った、系統的な指導を継続して行うことができる。

・デメリット

一般的に学校規模が大きくなることから、1人の校長の負担が大きくなる。また、小学校の卒業式がないため固定化された人間関係を大きくリセットするタイミングがなくなる。9年制になるため、4年生から6年生におけるリーダー性の育成に課題が生じる。

● **教育委員会の考えについて**

小中一貫校と義務教育学校には、それぞれメリットとデメリットがありますが、小中一貫校におけるデメリットとした小中両校の調整役については、実務では教頭や主幹教諭が兼務することが多く、大きな負担となります。

一方、義務教育学校におけるデメリットである、1人の校長の負担が大きい点については、福田地区においては4校を現時点で統合したと仮定した場合でも、統合後の学校規模は約400人程度と大きな規模にならないため、1名の校長及び1つの教職員組織による学校管理が可能な規模です。なお、教頭や養護教諭、事務職員は2名ずつ配置されます。

また、他市の事例では、9年間の学校生活に区切りをつけるため、小学校の卒業式に相当する前期課程修了式を実施している事例もあることから、福田地区においても教育課程の検討(6-3制以外の4-3-2制など)と併せて検討してまいります。なお、4-3-2制では、1年生から4年生の学団となるため4年生にリーダーシップの経験を積ませることが可能となるほか、5年生から9年生が行事ごとに主担当学年を変えて企画・運営の経験を積ませることができます。これらはいわゆる中1ギャップを解消するためにも有効な対応となります。

これらのことから、小中一貫教育を導入し、9年間の一貫した学校運営による質の高い教育を実現していくためには、一つの学校組織である義務教育学校の方が組織・運営面で有利です。

一つの学校組織で、教職員が子どもたちに対して、9年間の連続性を持って、系統的な指導ができること、これを一番のメリットと考え、福田地区において義務教育学校を導入いたします。

2 統合までの検討スケジュールについて

1) 小規模特認校の在り方

小規模特認校の在り方については、教育委員会や検討委員会における検討のほか、各学校長、福田第二小学校の保護者などからご意見を伺い、丁寧な議論を進めてまいります。

■ **検討スケジュール**

項目	R 6	R 7
教育委員会等検討	検 討	
意 見 聴 取		意 見 聴 取
総 合 教 育 会 議		R 8 . 1 月
教 育 委 員 会 議		R 8 . 2 月

2) 学校施設の改修

義務教育学校開校にあたり想定される施設改修は以下のとおりです。

■ 想定される主な施設改修

- ・ 普通教室の空調設備整備（※不足教室分）
- ・ 小学生児童用遊具の設置
- ・ 教室の黒板高さの改修（※一般的な小学校0.8m程度、中学校：0.9～1.0m程度）
- ・ 階段の両側手すり設置、滑り止めなど
小学校と中学校では階段の蹴上寸法が異なるため、義務教育学校の開校に向けた対応として、①階段の両側に手すりを設け②階段の踏面の表面を粗面又は滑りにくい材料とします。
- ・ 男子用小便器で、高さがある便器の改修
- ・ スクールバス乗降場所等の整備

※プールの水深は、水位調節又はスノコ等の敷設により対応します。

小学校：0.8～1.1m 中学校：0.8～1.4m

■ 施設改修のスケジュール（案）

項目	R6	R7	R8	R9	R10（開校）
空調設備		設 計	工 事	※	
遊具設置	検 討	設 計	工 事		
階段・便器			工 事		
教室黒板等			工 事		

※施設改修のスケジュールについては、今後の児童数の減少により学校運営自体が困難になった場合に開校を前倒しする可能性があることから、令和9年度開校を想定したスケジュールとしています。

● 学童保育所について

開校時における児童生徒数の状況により、校内の空き教室への設置を基本として検討いたします。

3) スクールバスの導入

児童の通学距離が伸びることへの対応として、通学時における安全を確保するため、スクールバスの導入を進めます。なお、どこでも乗車可能とするのではなく、安全の確保が可能な場所にバス停を設置する方式（ステーション方式）を採用します。

なお、福田中学校では自転車通学に距離基準を設けていませんが、義務教育学校の開校に際して、交通安全及び防犯面などから、徒歩通学圏の設定を改めて検討します。

● **導入に際して決定する事項**

- ・ 1年生から9年生までの徒歩通学圏の設定
- ・ バスルートの決定とバス停設置場所の検討基準について
- ・ 運行時の細かなルールづくり

■ **スクールバス導入までのスケジュール（案）**

項目	R6	R7	R8	R9	R10（開校）
徒歩通学圏	検討	決定			
ルート・バス停基準	検討	決定			
運行ルール	検討	検討	決定		

※スケジュールについては、施設改修と同様に、開校の前倒しの可能性を踏まえて検討を進めてまいります。

4) **校名等の決定**

義務教育学校の開校にあたり、校名や校歌等の決定までのスケジュール（案）は次のとおりです。なお、体操服等は開校時における経過措置の検討も含みます。

■ **決定までのスケジュール（案）**

項目	R6	R7	R8	R9	R10（開校）
校名	選定方法の決定	選定作業	決定	※	
校歌		選定方法の決定	選定	※	
制服等		検討	検討	選定	

※スケジュールについては、施設改修と同様に、開校の前倒しの可能性を踏まえて検討を進めてまいります。

3 統合地区内小中学校の交流について

令和10年度に開校する義務教育学校では、小学生だけでなく中学生も同じ施設内で一緒に学校生活を送ることになります。

福田地区の小学校3校の児童だけではなく、福田中学校の生徒も含めた地域の子どもたちが、統合までの間にたくさんの交流の機会を持ち、親交を深めておくことは、新たな環境への不安をできるだけ取り除き、義務教育学校における学校生活の始まりをスムーズなものにしてもらうための重要な準備の一つです。

教育委員会では、これまでの福田第一小における単独開催が難しい学校行事の合同開催を継続するほか、令和10年度の開校に向けて、新たに福田中学校との交流も実施してまいります。

■福田地区における新たな小中学校間の交流活動（案）

- ・ 6年生児童の中学校部活動への練習参加
（陸上、女子バスケ、女子バレー、サッカー、吹奏楽、男子卓球など）
- ・ 福田中生徒による出身校への出前指導
- ・ 中学校体育祭における小学生種目の設置（※翌年度以降の合同開催の検討）
- ・ 福田中文化祭（みのり祭）への小学生の参加（※翌年度以降の合同開催の検討）
- ・ 4校のPTAバザー合同開催の検討

■これまでの支援策を含む交流計画

- ◆陸上部の合同練習会
- ◆3校合同の林間学校
- ◆夏季休業期間中のプール水泳交流
- ◆二ツ塚小音楽会交流の実施
- ◆生活科・総合的な時間の学習交流会
- ◆二ツ塚小持久走大会への参加

4 未就学児を含む保護者説明会の開催について

前回の検討委員会で御了承を頂いた市と教育委員会からの新たな提案について、来年度の新1年生の保護者や未就学児世帯保護者の皆様のご意見を伺うとともに、各校保護者の皆様へご説明いたしました。

- ・ 福田地区小学校新1年生児童保護者説明会
- ・ 福田地区未就学児保護者説明会
- ・ 福田地区小中学校4校の保護者説明会